

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0160590071		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	アメニティ西岡水源池グループホーム 2階 空の虹		
所在地	札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号		
自己評価作成日	平成27年5月11日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajirokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0160590071-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の尊厳を第一に考え、最期まで「その人らしい生活」を送れるよう、職員が日々話し合いながら、一人ひとりに合ったケアを行い支援している。ご利用者自身の「今持っている力、引き出せる力」を大切にしたいケアプランを作成し、見守りと声掛けをおこなっている。ご利用者同士、またはご利用者と職員が笑顔でコミュニケーションをとれるような雰囲気作りや対応に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人および事業所の理念である、「地域との絆・自分らしく生きがいのある生活・馴染みのある環境作り」を、日々のケアや関わりに繋がるよう実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、運動会やゴミ拾い・花壇整備等の地域行事に参加している。また、グループホームの火災時における緊急通報システムの一員として、地域の方のご協力を得て避難訓練を行っている。ホームでの花火大会を周知し参加も頂いている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の方々に、より理解を深めて頂くように、スライドを使ってグループホームの日常生活や活動の様子を伝えている。また、参加者からの相談にもアドバイスをを行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、認知症高齢者の日常生活をスライドで報告しながら、症状の進行程度に合わせた支援の取り組みを伝えている。そこで出た意見は、新たな意見として職員に周知して、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長は、市町村担当者と電話で問い合わせや確認・相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加した職員が伝達講習を行い、各職員への周知を図っている。フローア入り口にセンサーを取り付けてはいるが、散歩・レク活動や趣味活動を行うことで、楽しみを持って生活をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員からの伝達講習や、高齢者虐待の事例について、職員同士の話し合いを行っている。普段から、高齢者虐待防止法への理解をより深めるよう、勉強会にも取り入れ防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の講習会に参加し、伝達講習を行うことで、職員全員がご利用者の権利を擁護する立場に立って、支援するよう努めて実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定等の内容についてはその都度説明を行い、疑問点等をお伺いし細かく説明することで、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアーの入り口にご意見箱を設置している。また、ご家族来所時には、ご利用者の様子など近況報告をしている。定期的にアンケート調査を行うことで、ご利用者が中心となるサービスを心がけている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を行う他、月1回のスタッフ会議などで意見を聞く機会を設け、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談以外にも、日々の仕事の中で職員の悩み事や仕事におけるストレスなど聞く時間をとるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修は、多くの職員が受講できるように配慮している。月1回の全体会議で、研修報告・伝達講習を行い、各職員のスキルアップに努めている。また、毎月テーマを決めて各職員が担当する勉強会も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域での管理者会議、地域医療連携システム連絡会に出席し、同業者との交流・情報交換することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。他ホームとの交流も行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用についての相談があった場合、ご本人に会って心身の状態や困っていること・不安に思っていることを確認している。また、ご家族が同席して一緒にお話することで、情報を得ながら少しでも安心してお話が出来るような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームを見学して頂き、ご家族が不安に思っていること・困っていることをお聞きして、安心して頂けるような対応を心がけている。電話での問い合わせ等でも、安心して相談しやすい様に質問に対して丁寧に説明するように心がけている。ホーム長室も常に開放し、相談できる環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族がどのような支援を望まれているか、しっかりと話し合い他のサービス利用も含め対応に努めている。入居後も話し合う時間を持ち状況に応じて、一番良い形で支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が得意な事を活かし、日々の生活の中で役割を持って生活できるように、職員とともに助け合い、お互いに感謝の気持ちを言葉にしながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご利用者の生活の様子や思いを伝える事で、ご利用者の思いに少しでも応えられる様に出来る範囲での支援をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から交流のある友人が気軽に来訪できるような環境作りに努めている。友人からの電話の取次ぎも、ご家族の了解を得て行っている。ご家族の写真なども飾っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の相性を職員が把握しトラブルにならないように気をつけている。ご利用者同士で支え合い、思いやりをもって接して頂けるように各々役割を持って頂きながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もご利用者・ご家族の相談や支援できる体制が整っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、ご利用者の希望や意向の把握に努めている。また困難な場合には、ご家族の協力を得て職員全員で話し合い、ご利用者の意向に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご利用者の生活歴や習慣等をお伺いし、基本情報シートに記入し、職員全員が把握できるように努めている。また、自室には使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、馴染みのある生活環境を提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者のホームでの過ごし方や心身状態を記録し、一日二回の申し送りで職員全員が把握できるように努めている。大事なことは他にノートを用いて送っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望、ご家族の意向や要望を面会時にお伺いし、職員全体で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、変化やケアの実践・結果等を個別記録に記入し、一日二回の申し送りで情報を共有している。また介護計画の見直しにも活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の希望や意向をお聞きし、個々に合ったサービスを提供できるような柔軟な支援やサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヘアカット・読み聞かせ・玉すだれ・演奏会等の様々なボランティアの活用や、町内会行事への参加等地域との絆を大切にして、馴染みの関係を構築し、日々の暮らしを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望に沿った内科・歯科・皮膚科の定期的な訪問診療時の対応や通院医への受診報告書により、かかりつけ医との関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤でいる為、少しでもご利用者の様子に変化や不安な事があれば、直ぐに相談・報告を行い対応ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の様子や心身の状態を報告している。また退院時には入院時の様子をご家族・病院関係者から情報を得て、円滑に対応できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の意向を尊重し、担当医と話し合いを重ねている。その中で職員一同方針を共有し、ケアに当たっている。看取りのマニュアルがあり、その方に合った介護計画も作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・自己発生時にはマニュアルがある。また速やかに動けるように勉強会を行い確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、地域の方に協力をしていただきながら避難訓練を行い、職員全員が避難方法を把握できるようにしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を実施したり、ホーム内に標語のポスターを掲示し、職員一人ひとりが意識しながら、ご利用者と接する事ができるように努めている。個人情報の取り扱いについては法人内の研修に参加し、ホーム長の指導のもと十分に注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と接する中で、表情や行動で察する事が出来るように日頃からケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の体調や気分・ペースに合わせ、ご利用者の意思を尊重できるようにケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容や馴染みの美容室を利用して頂いている。好きな服や馴染みのものを着用して頂いたり、お化粧品も個々に任せて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けはご利用者と職員が一緒に行っている。行事での食事は一人ひとりの好みや食べやすさを考慮して提供しており、ご利用者が楽しみにされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量や食事の摂取量を記録し、その方に合った食事量で提供している。毎月体重測定を行い、無理の無い程度に食事の量も調整している。ご利用者の咀嚼状態・嚥下状態に合わせて食事の形態や配膳のタイミングを配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとりの力により介助・声掛け・見守りを行っている。残歯がある方は二ヶ月に1～2回程度、訪問歯科を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者の認知状況により時間を見てのトイレ誘導や、行動を察知してトイレ誘導するなど、一人ひとりに合った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を提供し、適度に水分を摂取できるようにしている。一度にたくさん飲めない方には少しずつ提供して飲んで頂けるように取り組んでいる。排便の記録を見ながら、一人ひとりに合わせ、下剤の調整や腹部を温めたりマッサージをして排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴予定は前日に設定し、ご利用者の外出予定に合わせて週二回以上入浴できるように支援している。また、入浴拒否が見られた場合は、無理強いせずにいつでも入れるように毎日声掛けをして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣が崩れない程度に、外出・入浴・体操や、その日の体調に応じた休息をして頂き、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬剤情報は介護記録の常に目を通すことが出来るようへ保管している。薬剤の変更・臨時薬があった場合には記録に記載し、申し送りして全職員に周知している。服薬方法は、一人ひとりに合わせて確実に服用して頂けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意な事・好きな事に力を活かせるような活動をして頂いたり、お手伝いをして頂いた際には感謝の気持ちを伝え、役割や達成感を感じて頂けるようにしている。レクリエーションでや外出等で気分転換して頂けるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に応じ散歩に出掛けている。ご利用者から普段行けないような場所への希望があった場合はご家族に協力をお願いしたり、戸外の行事を計画して出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、ご自分で管理して頂き外出時に買い物される際には支払いもご利用者に行って頂いている。小遣いをお預かりしているので、希望があった場合にはご家族に確認してから購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば電話を使用して頂いている。職員や他者を気にせずゆっくりお話が出来るよう、居室でお話して頂いている。電話がかかってきた時も職員が取り次いでいる。手紙が来た時は、ご家族に確認してから、お渡ししたり代読して聞いて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、廊下に写真を掲載して楽しんで頂いている。フロア内には季節を感じて頂けるような飾りを製作してディスプレイしている。ご利用者にとって不快・混乱を招くような音・光・温度・湿度にならないように配慮し、共用空間は清潔に保つように気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間にソファを置き、気の合ったご利用者同士でお話して頂いている。一人でソファにいる方には、テレビやDVDを見て頂き、気楽に過ごして頂くようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、ご利用者が使い慣れた家具を持ってきて使用して頂くようにしている。それぞれの好みでラジオやテレビや本棚・机を置いたり、壁にご自分で作られた作品を飾り、心地よく過ごして頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手摺が設置されている。夜間帯はライトダウンでトイレの場所が分かりやすいようになっている。出来るだけ自立した生活が送れるように、場所の表示やポスターも分かりやすいように工夫している。		